

9条「このまま」市長 & 市議10名！

4月12日に投開票が行われた坂戸市長選挙で、「9条はこのままでいい。戦争は二度としてはいけない！」と回答した石川清氏が当選しました。

市議会議員選挙では、「9条はこのままでいい」と回答した新井文雄(日本共産党)、柴田文子(公明党)、鈴木ともゆき(日本共産党)、武井 誠(社民党)、中村ひろし(立憲民主党)、野沢聖子(公明党)、平瀬としひさ(日本共産党)、古内秀宣(公明党)、宮坂裕之(日本共産党)、弓削勇人(立憲民主党)の各氏が当選しました。

定員20名中10名が「9条はこのままでいい」議員ということになります。これまではなかったことです。

坂戸市長、そして当選した坂戸市議会議員のそれぞれには違いがあるのは確かですが、そうであっても、「9条はこのままでいい」と坂戸市民に回答したことだけは共通しています。

この「9条はこのままでいい」という一点から始められる何かがあるのではないのでしょうか。皆さまのご意見をお待ちしております。

早春のつどいで「辺野古の今」

2020年2月9日(日曜日)坂戸駅前集会施設を会場に、「九条の会さかど早春のつどい」を開催しました。



越生町9条の会の会員であり、辺野古に新しい基地を作らせないと2004年から沖縄に通い、辺野古のカヌーチーム「辺野古ぶるー」にも携わ

っている水沢澄江さんが、「辺野古の今 沖縄から見えるもの」と題して話題提供を行ないました。

ドキュメンタリー映画『沖縄で何が起きているのか』を上映しながら、多くの人に、知って、考えて、行動してほしいとお話しました。今後の号で、当日配布されたレジュメの主な内容を掲載します。

早春のつどいの感想から

◆ 沖縄の現在を映像で見せていただいたので、その場に言ったような思いになった。花・海の生き物、素晴らしい風景。こんなところが基地にされているのは本当にもったいないことだと思う。

話してくださった水沢さんは、2004年から沖縄に行き、基地反対の活動に参加されていると言うからすごい。こんな活動を長く続けられるというのは、それなりの強い思いがあるからでしょう。

こういう方の話しに心を動かして私もという方が出るということが会を持つことの狙いであるがなかなか厳しいことである。

良いと思われることに感動し、自らも行動するような人は、どのようにしたら育つのだろうか。(元町 新井竹子)

◆ たくさんの映像により、辺野古の様子が具体的に伝わってきました。新聞記事もとても参考になりました。

毛呂山病院に米軍機が墜落したことも、初めて知りました。他国では、地位協定で国内法が適用されていることも、初めて知りました。

知らないことがたくさんあることを自覚して、学び続けていかねば…と思いました。

◆ 水沢さんが2004年から活動されていることと、そのきっかけが社会科の教員をされていたからと言うのは素晴らしいと思いました。他の社会科の先生はどう考えているのか知りたくなりました。

映像での説明、わかりやすく良かったです。話のうまさや段取りの良さ、さすが学校の先生だと思いました。(平瀬)

九条の会さかど 15周年のつどい

日時 6月28日(日曜日)13時30分～16時 (5月31日から延期)

但し、市内施設の使用中止が延長された場合は再延期となります

会場 坂戸駅前集会施設(2階)集会室

内容 「変えたほうがいい」に静かに耳を傾ける(仮題)

- ◆ 行動する知識人に圧倒された。沖縄への水沢さんの情熱はどこから生まれたのか？
社会科の教師はかくあるべし！と感じました。
(西坂戸 高橋正宏)
- ◆ 沖縄を通して埼玉を観る。課題を据える…ということ気付かされた。**(M)**
- ◆ 終わりのほうでのお話し。越生町議会への「オスプレイ」の請願では、国の安全保障政策への賛否を掲げるようなものにはせず、越生町の上空に飛んで来るオスプレイからの安全に絞ったことで、議会での幅広い賛同を得られたそうです。
こういった工夫は、9条のことに限らず、市民の中で物事を進め広げていく上での大いなるヒントになると思います。やるからには広げなくでは！

『なつぞら』で戦争孤児は

西坂戸 大山 茂

NHKの朝ドラは「連続テレビ小説」として、当初は有名作家の小説を文字どおり「テレビ小説」として放送していましたが、しだいに「小説」から離れ、「女性の生き方」を実在の方をモデルとして、毎朝放映するようになっていきました。

毎朝の展開で主婦層を元気づけることがベースになっています。女性の生き方にスポットを当てることにより、戦争中の「銃後の守り」の実態、終戦直後の生活再建での様々な苦悩を扱うことが多くなっていきました。高い視聴率のこの朝ドラは、戦争のことをよく知らない人も多く見ているはずなので、「戦争の悲惨さ」を語り継ぎ、憲法9条の改悪を許さない世論形成も期待できます。

昨年前半期の作品として高視聴率を得た『なつぞら』は朝ドラ100作目としてNHKが総力をあげたもので、人気タレントを惜しみなく投入し、9月いっぱい終了しました。父は戦死、母は空襲で焼死、戦争孤児となった兄妹が力を合わせて生き抜く話です。

戦争孤児は社会全体が手を差し伸べ救援されるべき存在でありましたが、「浮浪児」とさげすまれていました。信じたくはないのですが、放置されたような存在でした。

『なつぞら』では、戦争孤児の実態が随所に現れていました。上野駅でさまよう孤児が助け合い、日々の食べ物の確保のために必死になっている場面からのスタートでした。咲太郎・なつ・千遥の3兄妹は散り散りになりましたが、奇跡的ともいえる周囲の人々の支えにより生き抜き、最終的には力を合わせていくというストーリーです。

戦争孤児は「戦争が終わってから本格的に悲劇が始まった」存在であったことが浮き彫りになっていたドラマであったといえます。ところどころで「戦争さえ

なければ」という悲痛な言葉が出てきて、戦争孤児問題の根深さを訴えている場面もありました。

それぞれの艱難辛苦を3人とも乗り越え、夢と希望をもつ人生を歩むことになり、十勝平野で誓い合ったところでドラマは完結しました。

大日本帝国憲法のもとでの戦争で両親を失いましたが、日本国憲法に変わった中で3兄妹がサクセスしていく展開は、憲法9条の改悪を許さない世論の形成につなげていくことができるし、国民にアピールしていくことができる内容です。

話の展開が現実離れしているところもあり、出演者の表情や画面の背景が「戦争孤児」の問題提起からしだいに離れ、単なるサクセスストーリーになっていったところが気になるという見方もありますが、戦争体験を語れる人が少なくなっている現在、こうしたドラマを通じて「戦争の悲惨さ」を語り継いでいくことはきわめて大事なことだと思います。

引き続きカンパのお願い

2月号で「カンパのお願い」をしたところ、郵便振替ほかで、36,680円をお寄せいただきました。ありがとうございました。

今回のカンパでやっと一息つけた格好ですが、これまでの赤字のため清算できなかった郵送代や用紙代・印刷代といったニュースの発行ごとに必要となる経費を考え合わせると、実質的には赤字のままです。

新型コロナが収まるまでは会場カンパに期待できない以上、まだまだ安心できる状況ではありません。

九条の会さかどの活動を、カンパを通じても応援したいとお思いの皆さま、引き続きのカンパをお待ちしております。

[郵便振替口座]

- 加入者名 小林忠夫
- 口座番号 00570-1-7977
- 通信欄に「九条カンパ」とご記入ください。

投稿を募集します

コロナ過のもとにあっても、会員同士がつながり続けることができる！ そのひとつがこの「九条の会さかどニュース」です。

9条について日頃から思っていることを、お聞かせいただけますか。戦争のことや平和のこと、「私はこうして9条に出会った」と子ども達に伝えたいことなど、皆さまの投稿を募集しています。原稿は、筆名でも構いませんし、長くて短くても構いません。

今後の運営委員会(会員なら誰でも参加できます)

女性センターでの開催は当面休止し、毎月第4木曜日10時～12時に、インターネット上でWeb会議として開催します。参加方法については、お問い合わせください。